

令和7年度
専門性向上研修の手引
(実習教員)



問い合わせ先

島根県教育センター 企画・研修スタッフ
〒690-0873 松江市内中原町255-1
TEL (0852)22-5853 FAX (0852)22-5581

島根県教育委員会

島根県の教職員として求められる資質能力

教職員として求められる資質能力は、普遍的でいつの時代にも求められるものと、時代の変化に対応してその時代時代に求められるものがある。社会の変化や時代のニーズに応える学校教育の実現には、教職員の職務に応じた資質能力の向上が不可欠である。職務に関わる専門的知識・技能の他、様々な課題に対応するための実践的指導力の向上を図るためには、常に探究心を持ち自主的に学び続ける力が求められている。また、学校組織の一員としてのコミュニケーション能力、他者と連携・協働する力も大切である。

そこで、島根県の教職員として求められる資質能力を次のように定める。

島根県の教職員として求められる資質能力

- 豊かな人間性と職務に対する使命感
- 子どもの発達の支援に対する理解と対応
- 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- よりよい社会をつくるための意欲・能力

キャリアステージに応じて求める姿と育成する資質能力

【採用までに身に付けておいて欲しいこと】

新規採用された段階。教職課程認定を受けた大学等、養成段階での学修等を通して、教育職員として勤めるための素養や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていることが必要である。

【自立・向上期(1～5年目)】

新規採用時からおよそ5年目までの5年間の期間にあたり、教育職員として授業や学級経営等の実践的指導力を身に付けて自立し、向上心を持って成長していく基盤を固める期とする。

【探究・発展期(6～15年目)】

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

【充実・円熟期[前期](16年目～概ね25年目)】

経験16年目以降から概ね25年目の期間にあたる。教育職員として様々な教育実践を重ねることで教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、主任やミドルリーダーとしての自覚や責任を持って教育活動を円滑に進める資質能力を高めていく期とする。

【充実・円熟期[後期](概ね26年目以降)】

概ね経験26年目以降の期間であり、経験豊富で知見があるベテラン層の年代にあたる。教育職員として教科等の専門的知識及び技能をさらに高めていきながら、学校運営にも積極的に参画し、後進にも適切な助言を与えるなど人材育成を図っていく期とする。

島根県公立学校教育職員の育成指標

「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」

教諭等の育成指標

～学び続ける教育職員を目指して～

令和5年3月 島根県教育委員会

資質能力	キャリアステージ	採用までに身に付けておいて欲しいこと*2	自立・向上期 (1~5年目)	探究・発展期 (6~15年目)	充実・円熟期 (16~概ね25年目) 【前期】*3		(26年目以降) 【後期】
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	①人間理解・人権意識	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。					
	②職務に対する誇りと責任	・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。					
	③ふるさとを愛する心	・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。					
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応*1	④生徒指導の推進	・発達段階を踏まえた子ども理解・子ども支援、キャリア発達など生徒指導に必要な基礎理論・知識を習得している。	・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を共感的に受け止め、良さや可能性を伸ばしながら、学級等の集団づくりを進めることができる。	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。	・キャリア発達の視点をふまえ、教職員と協働したり地域社会や外部機関と連携したりしながら、さまざまな場面をとらえて子どもが自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。	・子どもに関わる様々な問題やキャリア発達への対応力を身に付け、学校の教育活動全体を通じた連携体制をつくりながら、子どもの自己実現の達成をめざして支援していくことができる。	
	⑤特別支援教育の推進	・特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導に関する基礎理論・知識を習得している。	・特別な配慮や支援の必要な子どもの実態把握を行い、一人一人のニーズに応じた指導や支援についての計画を立て、実践することができる。	・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。	・特別な配慮や支援の必要な子どもに組織的に対応するための知識や方法を身に付け、家庭や地域等と連携することができる。	・校内での支援体制の構築や関係機関及び異職種等との連携など、特別支援教育を組織的に推進することができる。	
			<p><全キャリアステージに共通した指標></p> <p>・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方を踏まえて、教育活動を実践することができる。</p>				
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	⑥教科等の指導に関する専門性	・教育課程の編成、教科等の指導方法に関する基礎理論・知識を習得している。	・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。 ・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等の専門的知識及び技能の習得に努めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その視点をふまえて教科等を相互に関連させながら協働して授業研究を行うなど意欲的に教育実践に取り組むことができる。 ・子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を行うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度を高め続けることができる。 ・教科等の相互関連や学校段階間の円滑な接続を意識した教育実践を行うことができる。 ・校内研修の中心的な役割を担うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度をさらに高め、後進に適切な助言を与えながら、人材育成に取り組むことができる。	
	⑦ICTや情報の利活用*4	・ICTを活用した授業デザインを実現するための、ICT活用に関する基礎的な知識（情報モラルを含む）や基本的な技能を有している。	・今まで学んできたICT活用や教育データ活用に関する基礎的な知識・技能を教科等の指導や校務に積極的に取り入れながら活用することができる。	・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。	・時代に即応した知見を取り入れつつ、さらに専門性の向上をはかりながら、同僚と連携・協働し、校内に広めていくことができる。	・校務の情報化の推進に積極的に参画するとともに、後進に適切な助言を与えながら育成することができる。	
	⑧社会の変化への対応	・新たな学びや教育課題に対して、積極的に挑み試行錯誤しながら粘り強く取り組む意欲や探究心を有している。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、長期的な見通しをもって組織的に取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、より幅広い視点に立って自分自身をさらに向上させていくことができる。	
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	⑨学校組織マネジメント	・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。	・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。	・スクールリーダーとしての自覚や責任を持つとともに、企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めることができる。	・学校教育目標の達成を目指し、学校の運営・指導体制構築に積極的に参画することができる。	
	⑩他者との連携・協働	・集団で活動する際、自己を成長させようとする意欲や態度を有している。	・他の教職員の意見を活かしながら、自らの役割に応じて行動することができる。	・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。	・他の教職員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整しながら、相互に支えあう体制づくりができる。	・職場の同僚性が発揮できるような雰囲気づくりをするとともに、後進を育成する観点を持ちながら組織を動かしていくことができる。	
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	⑪地域資源の活用と地域貢献	・学校教育活動を通して、地域社会に貢献することについて、自分なりの考えや意欲を有している。	・子どもと地域社会をつなごうとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。	・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。	・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができる。		
	⑫合意形成に向けた議論の調整・促進	・子ども同士の話し合いの場面において、適切に働きかける力を有している。	・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。	・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。	・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進することができる。		

*1 この指標において「子ども」とは幼児・児童・生徒のことである。

*2 「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。

*3 「充実・円熟期」の「前期」と「後期」の境目は概ね25年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。

*4 指標⑦「ICTや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

目次

島根県の教職員として求められる資質能力
島根県公立学校教職員の育成指標
専門性向上研修(実習教員)概要

専門性向上研修(実習教員)実施要項	1
目的、研修の対象者、研修期間と認定、所属教育センター、校内の指導体制	2
研修内容	3
研修報告	6
提出物、提出方法及び締切日、その他	7
専門性向上研修(実習教員)様式	9
様式1 計画書	10
計画書(記入例)	11
様式2 課題研究構想メモ	12
様式3 課題研究レポート中間発表用	13
様式4 課題研究レポート	14
様式5 報告書	15
報告書(記入例)	16

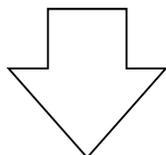
この手引では、下表の左欄の表記を右欄の通り表記する。

島根県教育委員会	県教育委員会
島根県教育センター研修情報システム	研修情報システム

専門性向上研修(実習教員)年間計画	17
校内指導体制	19
研修内容	20
4月～5月	
専門性向上研修を受講することを校長に報告する	21
第Ⅰ回教育センター研修(オンライン)	21
専門研チームづくり	21
5月～6月	
専門性向上研修の見通しを立てる「専門性向上研修計画書[様式1]」の記入	22
「専門性向上研修計画書[様式1]」を教育センターに提出する	22
「課題研究構想メモ[様式2]」を作成する	23
研究構想 校内発表	23
「課題研究構想メモ[様式2]」を教育センターに提出する	23
課題研究構想発表の進め方の例	24
5月～8月	
専門的知識・技能向上研修の構想を立て、実践の準備をする	25
7月～1月	
オンデマンド研修動画を視聴し、アンケートに回答する	25
8月	
第Ⅱ回教育センター研修(集合)	26
9月～10月	
「課題研究レポート中間発表用[様式3]」を作成する	27
校内において課題研究中間発表を行う	27
「課題研究レポート 中間発表用[様式3]」を教育センターに提出する	27
課題研究中間発表の進め方の例	28
9月～2月	
専門的知識・技能向上研修の実施「授業前の協議・準備」「授業」「振り返り」	29
「課題研究レポート[様式4]」を作成し、教育センターに提出する	29
校内において課題研究成果発表を行う	29
2月	
第Ⅲ回教育センター研修(オンライン)	30
「専門性向上研修 報告書[様式5]」を作成し、教育センターに提出する	30
研修情報システムの操作方法	31
研修に役立つ資料	38
年間予定表	40

専門性向上研修（実習教員）概要

島根県公立学校教育職員 人材育成基本方針における育成指標「探究・発展期」
およそ6年目から15年目までの10年間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

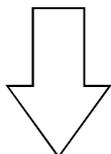


教職経験年数に応じた研修の一環として1年間の研修を実施

【目的】

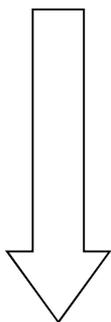
- ・実習教員としての専門的知識及び技能を高める
- ・教育活動を円滑に進める役割を担うために必要な資質能力を高める

計画等（4、5月）



専門性向上研修の見通しを立てる(計画書の作成・提出)

研修内容（4月～2月）



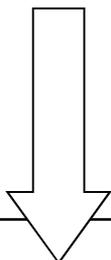
O J T 研修

- ・課題研究 [通年]
課題研究の発表(3回)
- ・専門的知識・技能向上研修 [1回]
- ・メンタルヘルス [1回]

O f f - J T 研修

- ・教育センター研修
オンライン研修 [2日]
集合研修 [1日]
オンデマンド研修 [0.5日]

報告（2月）



報告書等の作成・提出

次年度の取組

専門性向上研修 (実習教員)

実施要項

専門性向上研修(実習教員)実施要項

1 目的

教職経験年数に応じた研修の一環として、個々の能力や適性等に応じて、実習教員としての専門的知識及び技能を高め、教育活動を円滑に進める役割を担うために必要な資質能力の向上を図る。

2 研修の対象者

(1) 平成12年度以降に採用された公立の高等学校及び特別支援学校における実習教員のうち、令和6年度末に、教職経験年数(以下「経験年数」という。)が10年以上の者で、専門性向上研修をまだ受講していない者。

なお、対象となる者のうち、令和7年度に専門性向上研修を受講する者を「受講者」とする。

※経験年数の計算にあたっては島根県教職員人事異動ルールに従う。なお、県外での経験年数も含める。

(2) 当該年度において、以下に所属又は派遣されている者は、研修を延期する。学校勤務になってから受講する。

ア 行政機関

イ 在外教育施設

ウ 教員長期社会体験研修

(3) 以下の者は、研修を免除する。

ア 他の任命権者が実施する専門性向上研修(10年経験者研修)に相当する研修を修了した者

イ 当該年度に、兵庫教育大学・島根大学教職大学院派遣研修に派遣されている者

※ただし、学校勤務になってから受講することもできる。なお、教職大学院派遣研修を修了できなかった場合は、学校勤務になってから受講する。

ウ 当該年度に行政機関において、学校教育(学校訪問等を通じて学力向上、授業力向上等に係る指導助言等)に係る事務に主として従事しており、県教育委員会が当該者の経験の程度を勘案して、実施する必要がないと認める者

エ 特別な事情により、県教育委員会が定める者

3 研修期間と認定

(1) 県教育委員会が定める年度の1年間とする。

(2) 全ての研修を修了した者に研修修了認定を与える。なお、研修期間については、特別な事情があった場合、8ヵ月以上の研修期間を有することとする。

※年度途中で受講者の研修の継続に困難な状況が生じた場合、校長は所属教育センターに連絡する。

4 所属教育センター

島根県教育センター

5 校内の指導体制

校長は、学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行う。また、受講者が本研修を実施するにあたり、校務等の軽減について配慮する。

6 研修内容

(1) OJT研修(日常の教育活動を通して、計画的・重点的に職務に必要な資質能力の向上を図る研修)

ア 課題研究[通年]・課題研究の発表[3回]

[ねらい]

自ら計画・実践・評価・改善を行い、専門的知識及び技能を高める。

[内容及び方法]

(ア) 教職経験を振り返り、自身の職務上における課題(伸ばしたい点)についてのテーマを設定し、管理職又は校内の教員の指導助言を受けながら自主的に取り組む。

(イ) 課題研究の取組状況と研究結果について、校内の教職員の前で発表する。

なお、「研究構想発表」「研究中間発表」「研究成果発表」をもって発表3回とする。

イ 専門的知識・技能向上研修[1回]

[ねらい]

同僚と協働して、実験や実習における専門的知識及び技能の向上を図る。

[内容及び方法]

(ア) 実習教員としての知識や技能を高めたい実験や実習の授業を一つ選ぶ。

(イ) 同じ教科を中心とした同僚とともに協議・実践する。「授業前の協議・準備」、「授業(実習教員としての職務)」、「振り返り」をもって1回とする。

ウ メンタルヘルス[1回]

[ねらい]

心身の健康の保持増進を図るために、ストレスに対処する考え方や行動を身に付ける。

[研修方法]

管理職又は養護教諭等(ただし、スクールカウンセラーは除く)による研修を2月中旬までに受講する。島根県、県教育委員会、市町村及び市町村教育委員会が主催又は後援する研修に参加することで代えてもよい。なお、旅費が発生する場合は、「教職員研修事業費」で対応する。

(2) Off-JT研修(日常の職務を離れて、計画的・重点的に職務に必要な資質能力の向上を図る研修)

教育センター研修[3.5日]

[ねらい]

(ア) 個々の能力や適性等に応じ、専門的知識及び技能を高める。

(イ) 教育活動を円滑に進める役割を担うために必要な資質能力の向上を図る。

(ウ) 受講者同士の協議を通して互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

[研修方法及び研修場所]

(ア) オンライン研修(2日)…………… 所属校又は校長が指定した場所

(イ) 集合研修(1日)…………… 島根県教育センター

(ウ) オンデマンド研修(0.5日)……… 所属校又は校長が指定した場所

[研修期日、会場及び研修項目等]

回	期 日	会 場	研 修 項 目 等
第Ⅰ回	オンライン 5月28日(水)	所属校 又は 校長が指定した場所	・オリエンテーション ・開講式 ・課題研究① ・学校組織マネジメント(校内連携)
第Ⅱ回	集合 8月7日(木)	島根県教育センター	・生徒指導・教育相談 ・教育の情報化2 ・課題研究②
第Ⅲ回	オンライン 2月10日(火)	所属校 又は 校長が指定した場所	・特別支援教育 ・生徒理解 ・課題研究③ ・閉講式
オンデマンド 研修	7月1日(火) } 令和8年 1月30日(金)	所属校 又は 校長が指定した場所	・教職員の倫理とサービス ・竹島に関する学習 ・人権教育 ・教育の情報化Ⅰ(第Ⅱ回教育センター研修までに視聴する)

- ※ 各回の教育センター研修実施要項は、実施日の3週間前に研修情報システム MyPage に公開する。
- ※ 受講者が、教育センター研修を欠席、遅刻、早退、会場・期日の変更をする場合、管理職は島根県教育センターに連絡する。
- ※ 教育センター研修を欠席した場合、受講者は島根県教育センターの課す補充的研修を校内において実施し、そのレポートを島根県教育センターの長に提出する。なお、レポートは管理職の指導と決裁を受けたものとする。
- ※ オンデマンド研修は、研修項目に挙げた項目をすべて視聴し、「理解できた内容や意識の変容、実践にどう生かしていくか」を、研修情報システムMyPage[アンケート]から回答する。

[研修項目別の目的と内容]

回	研修項目	目的と内容
第Ⅰ回(オンライン)	オリエンテーション	専門性向上研修の意義や目的、内容等を理解し、研修の見直しをもつ。 (ア) 研修の目的と内容
	課題研究 ①	専門性向上研修における課題研究の内容等を理解し、研修の見直しをもつ。 (ア) 学習指導要領が目指すもの (イ) 課題研究のテーマ設定と取組計画の作成
	学校組織マネジメント (校内連携)	教員一人一人が自らの経験や専門性を生かし、自身のよさを発揮できる環境を整え、組織として教育活動に取り組む重要性を理解する。 (ア) 「チームとしての学校」の体制
第Ⅱ回(集合)	生徒指導・教育相談	児童生徒・保護者等を適切に支援し、様々なケースに対応していく力量や校内での生徒指導・教育相談の推進を図るための実践力を高める。 (ア) 児童生徒・保護者等への支援 (イ) 状況に応じた連携支援
	教育の情報化 2	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア) 情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ) 教育情報セキュリティ (ウ) 教科等の指導における ICT 活用
	課題研究 ②	課題研究の構想発表を通して、研究を進めていくための新たな指針を得る。 (ア) 課題研究の構想と進捗状況についての発表・協議
第Ⅲ回(オンライン)	特別支援教育	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について理解を深め、校内での特別支援教育の推進を図るための実践力を高める。 (ア) 校内における特別支援教育の推進
	生徒理解	生徒との関係を築き、ケースに応じた支援の力量を高める。 (ア) 生徒と関わる時の基本姿勢 (イ) 状況に応じた連携支援
	課題研究 ③	課題研究成果発表等を通して1年間の研修を振り返り、研修の成果を確かめるとともに、次年度の職務の充実について展望をもつ。 (ア) 課題研究成果発表 (イ) 職務研修の振り返り (ウ) 情報交換

	研修項目	目的と内容
オンデマンド研修	教職員の倫理と服務	教職員として、高い倫理観と教職に対する情熱・意欲や使命感、責任感をもつ。 (ア) 教育法規等についての理解 (イ) 事例から学ぶ
	竹島に関する学習	竹島問題について、歴史的事実や国際法上の根拠等についての理解を深め、竹島に関する学習を充実させるための指導力を高める。 (ア) 島根の指導者に求められること (イ) 竹島問題についての正しい理解 (ウ) 「竹島に関する学習」のこれから
	人権教育	中堅教諭等として、誰もが安心して学びに向かえる学校づくりを推進するためのコーディネートをする力を身に付ける。 (ア) 島根が目指す人権教育の理念に基づく組織的な取組の推進 (イ) 人権が尊重される環境・集団づくり
	教育の情報化Ⅰ	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア) 情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ) 教育情報セキュリティ

7 研修報告

- ・受講者は、報告書[様式5]を作成し、課題研究レポート(最終報告用)[様式4]と共に、校長に提出する。
- ・校長は、受講者から提出された報告書[様式5]、課題研究レポート[様式4]を、研修情報システム学校Page[報告書提出]からPDFファイルでそれぞれ別々のフォルダに提出する。

8 提出物、提出方法及び締切日

	様式	提出物	提出方法		締切日
			研修情報システム My Page	学校Page	
①	様式1	計画書		○	6月12日(木)
②	様式2	課題研究構想メモ	○		6月12日(木)
③	様式3	課題研究レポート 中間発表用	○		10月16日(木)
④	様式4	課題研究レポート(成果発表用)	○		令和8年 2月 5日(木)
⑤	—	オンデマンド研修アンケート	○		最終締切 令和8年2月5日(木) すべての研修動画視聴後、 1週間以内に回答する
⑥	様式5	報告書		○	2月26日(木)
⑦	様式4	課題研究レポート(最終報告用)		○	

※ 一覧表を参照し、校長の指導、決裁を受け、締切日までにPDFファイルで提出する。

※ 受講者は、②③④を研修情報システムMyPage[マイキャビネット]から提出し、⑤を[アンケート]から回答する。

※ 校長は、①⑥⑦を研修情報システム学校Page[報告書提出]からそれぞれ別々のフォルダに提出する。

※ 著作権、個人情報及び肖像権等に十分配慮する。

9 その他

研修の成果は、職員へ還元し、より多くの職員の資質能力の向上と学校の活性化につながるよう努める。さらに、校内研修はもとより、県内の各種研修会等で積極的に発表することが望ましい。

専門性向上研修 (実習教員)

様式

様式 1 (実習教員)

〇〇〇第〇〇号

令和7年〇月〇〇日

島根県教育センター所長 様

〇〇学校長 〇〇〇〇

専門性向上研修 計画書

職名	実習教員	氏名	
----	------	----	--

専門研チーム

チームメンバーの氏名 (受講者を含め3名以上) ※管理職は除く	
---------------------------------------	--

研修計画

課題研究で 取り組みたいこと	伸ばしたい資質能力や専門的知識・技能に関する職務上の課題など
-------------------	--------------------------------

※管理職、専門研チームの指導助言を受け、今年1年かけて取り組んでみたい研究について記入する。その後、課題研究で取り組みたいことが明確になったところで、課題研究構想メモ[様式2]を作成する。

研修名	研修内容	実施予定日
課題研究	研究構想発表	月 日
	研究中間発表	月 日
	研究成果発表	月 日
専門的知識・技能向上研修	授業前の協議・準備	月 日
	授業(実習教員としての職務)	月 日
	振り返り	月 日
オンデマンド研修	人権教育、教育の情報化など4項目の研修	月 日
メンタルヘルス研修	講師・主催者等	月 日

※ この計画書を見えるところに掲示し、計画的に研修を行う。

島根県教育センター所長 様

〇〇〇〇 学校長 〇〇〇〇

専門性向上研修 計画書

職名	実習教員	氏名	〇〇〇〇
----	------	----	------

専門研チーム

チームメンバーの氏名 (受講者を含め 3 名以上) ※管理職は除く	〇〇 〇〇 ← 受講者 △△ △△ □□ □□
---	-------------------------------

研修計画

課題研究で 取り組みたいこと	伸ばしたい資質能力や専門的知識・技能に関する職務上の課題など ・学習支援の方法を研究し、サポート力を向上させる。 ・技術習得の遅い生徒の技術を向上させる。 ・モチベーションの低い生徒の学習意欲を向上させる。
-------------------	--

※管理職、専門研チームの指導助言を受け、今年 1 年かけて取り組んでみたい研究について記入する。その後、課題研究で取り組みたいことが明確になったところで、課題研究構想メモ[様式 2]を作成する。

研修名	研修内容	実施予定日
課題研究	研究構想発表	5 月 20 日
	研究中間発表	9 月下旬
	研究成果発表	1 月中旬
専門的知識・技能向上研修	授業前の協議・準備	10 月中旬
	授業(実習教員としての職務)	10 月中旬
	振り返り	10 月中旬
オンデマンド研修	人権教育、教育の情報化など 4 項目の研修	8 月
メンタルヘルス研修	講師・主催者等	教頭・養護教諭 夏期休業中

※ この計画書を見えるところに掲示し、計画的に研修を行う。

様式2（実習教員）

令和7年度 専門性向上研修 課題研究構想メモ

学校名（ ） 氏名（ ）

教科等名

研究主題

（記載する内容）

- 1 研究の動機
- 2 研究の目的
- 3 研究仮説
- 4 研究（実践）の方法
- 5 検証方法
- 6 「研究構想発表」における協議内容又は指導助言を受けた内容

※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。

様式3 (実習教員)

令和7年度 専門性向上研修 課題研究レポート 中間発表用

学校名 () 氏名 ()

教科等名

研究主題

(記載する内容)

- 1 研究の動機
- 2 研究の目的
- 3 研究仮説
- 4 研究(実践)の方法
- 5 これまでの成果と今後の課題
- 6 「研究中間発表」における指導助言を受けた内容

- ※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。
- ※ 記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮する。

様式4 (実習教員)

令和7年度 専門性向上研修 課題研究レポート

学校名 () 氏名 ()

教科等名

研究主題

(記載する内容)

- 1 研究の動機
- 2 研究の目的
- 3 研究仮説
- 4 研究(実践)の方法
- 5 結果
- 6 考察
- 7 成果と課題
- 8 参考文献等

- ※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。
- ※ 研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮する。
- ※ PDFファイルに変換し、ファイル名を「専門研・課題研究・学校名・氏名.pdf」として、提出する。
ファイル名(例) 専門研・課題研究・〇〇高・〇〇〇〇.pdf

島根県教育センター所長 様

〇〇〇〇学校
校長 〇〇〇〇

令和7年度 専門性向上研修 報告書

職名	実習教員	氏名	
----	------	----	--

研修の実施状況

研修名	研修内容		実施日	
課題研究	研究構想発表		月	日
	研究中間発表		月	日
	研究成果発表		月	日
専門的知識・ 技能向上研修	授業前の協議・準備		月	日
	授業（実習教員としての職務）		月	日
	振り返り		月	日
メンタル ヘルス研修	講師・主催者等		月	日
オンデマンド 研修	研修内容	視聴月	研修内容	視聴月
	教職員の 倫理とサービス	月	人権教育	月
	竹島に関する 学習	月	教育の情報化	月

※PDFファイルに変換し、ファイル名を「専門研・報告書・学校名・氏名.pdf」として、提出する。
ファイル名（例）専門研・報告書・〇〇高・〇〇〇〇.pdf

記入例

島教セ第123号
 今〇年〇月〇〇日

「文書番号」を取得する。

島根県教育センター所長 様

〇〇〇〇学校
 校長 〇〇〇〇

令和7年度 専門性向上研修 報告書

職名	実習教員	氏名	〇〇 〇〇
----	------	----	-------

研修の実施状況

研修名	研修内容		実施日	
課題研究	研究構想発表		5月〇日	
	研究中間発表		11月〇日	
	研究成果発表		1月〇日	
専門的知識・ 技能向上研修	授業前の協議・準備		11月〇日	
	授業（実習教員としての職務）		11月〇日	
	振り返り		11月〇日	
メンタルヘルス研修	講師・主催者等	教頭	7月〇日	
オンデマンド研修	研修内容	視聴月	研修内容	視聴月
	教職員の倫理と服務	7月	人権教育	8月
	竹島に関する学習	7月	教育の情報化	8月

※PDFファイルに変換し、ファイル名を「専門研・報告書・学校名・氏名.pdf」として、提出する。
 ファイル名（例）専門研・報告書・〇〇高・〇〇〇〇.pdf

専門性向上研修 (実習教員)

年間計画

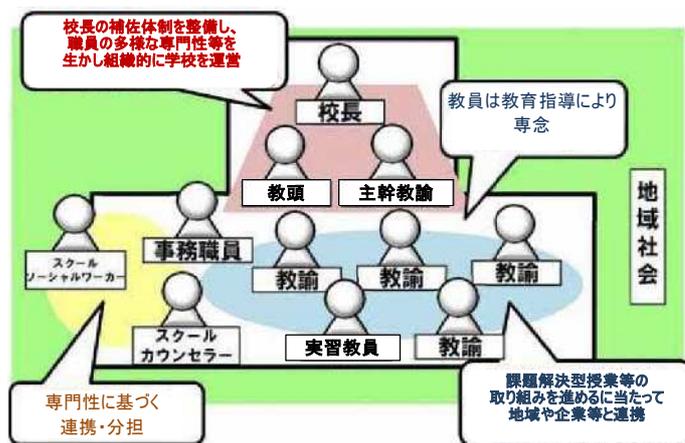
目次（年間計画）

校内指導体制	19
研修内容	20
4月～5月	
専門性向上研修を受講することを校長に報告する	21
第Ⅰ回教育センター研修（オンライン）	21
専門研チームづくり	21
5月～6月	
専門性向上研修の見通しを立てる「専門性向上研修計画書[様式1]」の記入	22
「専門性向上研修計画書[様式1]」を教育センターに提出する	22
「課題研究構想メモ[様式2]」を作成する	23
研究構想 校内発表	23
「課題研究構想メモ[様式2]」を教育センターに提出する	23
課題研究構想発表の進め方の例	24
5月～8月	
専門的知識・技能向上研修の構想を立て、実践の準備をする	25
7月～1月	
オンデマンド研修	25
8月	
第Ⅱ回教育センター研修（集合）	26
9月～10月	
「課題研究レポート中間発表用[様式3]」を作成する	27
校内において課題研究中間発表を行う	27
「課題研究レポート 中間発表用[様式3]」を教育センターに提出する	27
課題研究中間発表の進め方の例	28
9月～2月	
専門的知識・技能向上研修の実施「授業前の協議・準備」「授業」「振り返り」	29
「課題研究レポート[様式4]」を作成し、教育センターに提出する	29
校内において課題研究成果発表を行う	29
2月	
第Ⅲ回教育センター研修（オンライン）	30
「専門性向上研修 報告書[様式5]」を作成し、教育センターに提出する	30
研修情報システムの操作方法	31
研修に役立つ資料	38
年間予定表	40

校内指導体制

「チームとしての学校」をつくりあげていくことが大切だと言われています。学校の教育活動を展開していくためには、教職員をはじめ多様な専門性をもつ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携・分担して行うことが求められています。

チームとしての学校とは、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、児童生徒等が必要な資質・能力を確実に身に付けることができる学校なのです。専門性向上研修においても、受講者一人ががんばるのではなく、チーム学校として受講者を支え、教職員が互いの資質能力を向上できるようにしていくことが、これからの学校教育を展開していく上でも大切です。



専門性向上研修における校内指導体制

〔校長〕

- ・学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行う。
- ・受講者が本研修を実施するにあたり、校務分掌等の軽減について配慮する。

〔専門研チーム〕

- ・1年間を通じて校内で管理職を除いた3名以上(受講者を含む)のメンバーからなるチームで、受講者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。

チーム構成の例



研修内容

専門研をおかえた皆さんは、実習教員として実践を重ねられ、その経験を生かしながら教育活動に励んでおられることと思います。管理職や先輩・同僚から教えてもらうこともたくさんありますが、中堅教員として、後輩の相談相手になったり、アドバイスを与えたりすることも求められています。中堅教員としての役割を担うことを通して、自らの資質能力を育成していきましょう。

《専門性向上研修ではどんなことをするの?》

専門性向上研修は以下の2つの研修があります。

OJT 研修

- ・日常の教育活動を通して、計画的・重点的に職務に必要な資質能力の向上を図る。

☆課題研究(通年)

- ・課題研究
- ・課題研究発表(3回)
構想・中間・成果発表

☆専門的知識・技能向上研修(1回)

☆メンタルヘルス研修(1回)

Off-JT 研修

- ・個々の能力や適性等に応じて、実習教員としての専門的知識及び技能を高める。
- ・教育活動を円滑に進める役割を担うために必要な資質能力の向上を図る。
- ・受講者同士の協議を通して互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

☆教育センター研修

- ・オンライン研修(1日)
- ・集合研修(2日)
- ・オンデマンド研修(0.5日)

※課題研究発表・・・ 学校の実態や発表内容等に応じて、全職員、学年部、
(構想・中間・成果) 専門研チーム又は管理職等に対して発表を行う。



4月～5月

専門性向上研修を受講することを校長に報告する

- ・4月1日までに、自分が専門性向上研修の受講者であることを、校長に報告する。

第Ⅰ回教育センター研修（オンライン）

- ・教育センター研修の期日、オンライン接続の方法を確認しておく。
- ・教育センター研修2日前までに資料をダウンロードし、担当指導主事を確認する。



専門研チームづくり

- ・1年間を通じて、管理職を除いた3名以上（受講者を含む）のメンバーからなるチームで受講者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。
- ・チーム構成は、「受講者+教科担当教員」と「受講者を支える1名以上の教員」で編制する。
- ・受講者を支える教員は、管理職以外の誰でもよい。

チーム構成の例



5月～6月

同僚、管理職等からの指導・助言を得ながら、専門性向上研修の見通しを立てる

※「専門性向上研修計画書[様式1]」を記入する

- ・研修内容を確認し、1年間の研修の見通しを立てる。
- ・課題研究のテーマ、専門的知識・技能向上研修、メンタルヘルスの実施日を計画し、研修に関わる教職員に協力を依頼する。（「専門性向上研修計画書[様式1]」の記入）
- ・メンタルヘルス研修については、管理職又は養護教諭等（ただし、スクールカウンセラーは除く）による研修を2月中旬までに受講する。島根県、県教育委員会、市町村及び市町村教育委員会が主催又は後援する研修に参加することで代えてもよい。なお、旅費が発生する場合は、「教職員研修事業費」で対応する。

様式1（養育教員）

専門性向上研修 計画書

職 名	実務教員	氏 名	
-----	------	-----	--

専門性向上研修

テーマメンバーの氏名 <small>（受講者を含む3名以上） ※管理職は除く</small>	
--	--

研修計画

課題研究で 取り組みたいこと	伸ばしたい資力や専門的知識・技能に関する職歴上の課題など
-------------------	------------------------------

※科目別、専門性向上研修の指導員を受け、今年1年分けて取り組んでみたい「研修」について記入する。その後、課題研究で取り組みたいことが明確になったら、課題研究「事例メモ[様式2]」を作成する。

研修名	研修内容	実施予定日
課題研究	研究情報発表	月 日
	研究中間発表	月 日
	研究成果発表	月 日
専門的知識・技能向上研修	授業館の協議・準備	月 日
	授業（実習教員としての職務）	月 日
	振り返り	月 日
オンライン研修	人権教育、教育のデジタル化など4種類の研修	月 日
メンタルヘルス研修	講師・主催者等	月 日

※ この計画書を見えるところに掲示し、目的的に研修を行う。

「専門性向上研修計画書[様式1]」を研修情報システムから提出する [メ切6/12(木)]

- ・計画書を作成し、PDF ファイルに変換後、校長に提出する。
- ・校長は、「専門性向上研修計画書」を研修情報システム学校Page[報告書提出]から提出する。
(P37を参照)

5月～6月

「課題研究構想メモ[様式 2]」を作成する

- ・第 I 回教育センター研修で説明された「課題研究の進め方」をもとに、「課題研究構想メモ」を作成する。
- ・課題研究構想メモを作成するにあたり、同僚、管理職等から指導・助言を受ける。

研究構想 校内発表

- ・自分自身が取り組む課題研究の見通しをもつため、また、1年間にわたりどのような課題研究を行うのかを校内の教職員に理解してもらうために、研究構想を職員会議等で説明する。
- ・説明する対象は、全教職員、学年部、教科部など、学校の実態に応じて決める。その際、少なくとも一人の管理職の出席があるようにする。
- ・研究構想発表は遅くとも教育センターに提出する前日までに行う。



「課題研究構想メモ[様式 2]」を研修情報システムから提出する [メ切 6/12(木)]

- ・研究構想発表で得た意見・アドバイス等をもとに「課題研究構想メモ」を修正した後に、PDFファイルに変換し、研修情報システムMyPage[マイキャビネット]から提出する。(P35を参照)
- ・専門性向上研修受講者の「課題研究構想メモ」をダウンロードし、自身の研究の参考にする。



課題研究 構想発表の進め方の例

チームメンバー、管理職等を含む複数の教員又は全教職員の前で課題研究の課題研究構想発表を行います。発表と協議を通して、専門的知識・技能の向上をめざします。

○進め方

- ・司会はチームメンバーが行う
- ・流れ

① 発表

- ・構想メモをもとに、1年間取り組む課題研究について説明する。
- ・その他必要な資料を用いたり、プレゼンテーションソフトを活用したりして、参加者の理解と協力を得る。

② 質疑応答、参加者からのアドバイス

- ・よい点や改善の余地があると感じた点などについて

③ まとめ

- ・発表者が、今後の研究の取組についての展望(願い)を発表する。

メモ

5月～8月

専門的知識・技能向上研修の構想を立て、実践の準備をする（実践も可）

- ・チームメンバー、管理職等の指導・助言のもと、課題研究に基づく専門的知識・技能向上研修の構想を立てる。
- ・授業の指導者（教科等担当教員）に、自らが高めたい知識や技能について知らせる。
- ・知識や技能を高めるために、どのようなサポートをしていきたいのか、どのようなサポートをするとよいのか等を視点に、指導者とともに研究実践のための授業構想を練る。



7月～1月

全てのオンデマンド研修動画を視聴し、研修情報システム MyPage からアンケートに回答する

- ・オンデマンド研修は所属校又は校長が指定した場所で受講する。その際、研修時間に校務（授業等）を割り当てない。
※校内においては、出張と同様な対応をしてもらう
- ・研修情報システムMyPage[研修動画]からオンデマンド動画を視聴する。
(P33を参照)
- ・オンデマンド動画は、複数日に分けて視聴してもよい。
- ・すべての研修動画を視聴した後1週間以内に、理解できた内容や意識の変容、実践にどう生かしていくかなどについて、研修情報システムMyPage[アンケート]から回答する。（P36を参照）



第Ⅱ回教育センター研修（集合）

- ・課題研究の構想と進捗状況について発表できるよう、資料等を準備する。
- ・上記資料等を「受講者数+指導主事数+2」部作成し、研修当日に持参する。
- ・課題研究の構想と進捗状況についての発表・協議を通して、仲間からのアドバイスをすることで、今後の課題研究に役立てる。

○進め方

- ・司会進行は受講者が行います。
- ・流れ（グループの人数によって時間は変わります。詳しくは担当指導主事が伝えます。）

(1) 準備、全体説明

(2) 一人ずつ①～②を行う

① 発表

- ・これまでの実践の成果・課題・展望

② 協議、質疑応答

- ・参考になる点や改善点などについての協議
- ・必要に応じて担当指導主事のコメントやアドバイス

(3) 指導主事より全体のまとめ、諸連絡等

9月～10月

「課題研究レポート中間発表用[様式3]」を作成する

- ・専門的知識・技能向上研修や日常の実践を踏まえ、「課題研究レポート中間発表用」を作成する。
※研修情報システムMyPageからリンクしている「過去の課題研究レポート」を参照。
- ・資料を作成するにあたり、チームメンバー等から指導・助言を受ける。

校内において課題研究中間発表を行う
[10/8(水)までに]

- ・作成した「課題研究レポート中間発表用」をもとに、校内で課題研究中間発表を行う。
- ・中間発表は、チームメンバー、管理職等を含む複数の教員又は全教職員の前で行う。
- ・中間発表の進め方は、学校で創意工夫する。



「課題研究レポート中間発表用[様式3]」を教育センターに提出する

[最終メ切 10/16(木)]

- ・「課題研究レポート中間発表用[様式3]」をPDFファイルに変換して、中間発表終了後1週間以内に、教育センターに提出する。

(P35を参照)



課題研究 中間発表の進め方の例

チームメンバー、管理職等を含む複数の教員又は全教職員の前で課題研究の課題研究中間発表を行います。発表と協議を通して、専門的知識・技能の向上をめざします。

○進め方

- ・ 司会はチームメンバーが行う
- ・ 流れ

① 発表

- ・ 課題研究レポートをもとに、これまでの課題研究について説明する。
- ・ その他必要な資料を用いたり、プレゼンテーションソフトを活用したりして、参加者の理解と協力を得る。

② 質疑応答、参加者からのアドバイス

- ・ よい点や改善の余地があると感じた点などについて

③ まとめ

- ・ 発表者が、今後の研究の取組についての展望(願い)を発表する。

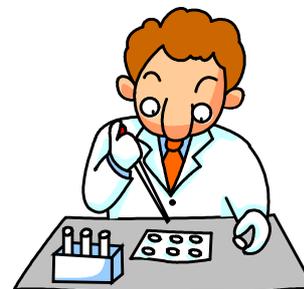
メモ

9月～2月

専門的知識・技能向上研修の実施

「授業前の協議・準備」、「授業（実習教員としての職務）」、「振り返り」等

- ・チームメンバー、管理職等の指導・助言のもと、課題研究に基づく専門的知識・技能向上研修を行う。
- ・授業に関わっていない場合は、自らの職務に関わる専門的知識・技能を向上させるための研修を計画的に行う。



「課題研究レポート[様式4]」を作成し、研修情報システムから提出する

[メ切2/5(木)]

- ・1年間の課題研究実践について「課題研究レポート[様式4]」を作成する。
- ・レポートを作成するにあたり、チームメンバー、管理職等から指導・助言を受ける。
- ・著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮する。
- ・作成した「課題研究レポート」(PDFファイル)を2月5日(木)までに、研修情報システムMyPage[キャビネット]から提出する。
(P35を参照)

校内において課題研究成果発表を行う

[2/20(金)までに]

- ・作成した「課題研究レポート」をもとに、校内で課題研究成果発表を行う。
- ・成果発表は、チームメンバー、管理職等を含む複数の教員又は全教職員の前で行う。
- ・成果発表の進め方は、学校で創意工夫する。



2月

第Ⅲ回 教育センター研修（オンライン）

- ・教育センター研修の期日、オンライン接続の方法を確認しておく。
- ・教育センター研修 2 日前までに資料をダウンロードする。
- ・「課題研究レポート[様式 4]」を準備しておく。
- ・詳細は、第Ⅲ回教育センター研修実施要項を参照する。



「専門性向上研修 報告書[様式 5]」を作成し、「課題研究レポート」とともに
研修情報システムから提出する [メ切2/26(木)]

- ・報告書を作成し、PDF ファイルに変換後、校長に提出する。
- ・「課題研究レポート(最終報告用)」を完成させ、PDF ファイルにして校長に提出する。
- ・校長は、「報告書」「課題研究レポート」を研修情報システム学校Page[報告書提出]からそれぞれ別々のフォルダに提出する。(P37を参照)

様式 5 (実習教員)		〇〇〇〇〇〇 学 令和 7 年 月 日	
高槻市教育センター所長 様		〇〇〇〇 学校 校長 〇〇〇〇	
令和 7 年度 専門性向上研修 報告書			
職 名	実習教員	氏 名	
研修の進捗状況			
研修名	研修内容	実施日	
課題研究	研究発表発表	月 日	
	研究中間発表	月 日	
	研究成果発表	月 日	
専門性向上研修 「主体的な授業」	教員間の交流・学習	月 日	
	授業（実習教員としての職務）	月 日	
	振り返り	月 日	
マンダリン ベルス制作	授業・指導者等	月 日	
オン デマ ンド 研修	研修内容	研修実施日	研修実施日
	教員間の 論議と協働	月	人権教育 月
	育前に関する 学習	月	教育の質向上 月

※ PDF ファイルを提出し、ファイル名を「専門性向上研修 報告書 学校名・姓(姓)・氏名」として、提出する。
ファイル名: 姓(姓)・姓(姓)・〇〇〇〇・〇〇〇〇.pdf

研修情報システムの操作方法

※ここに表示している画面は、実際のものとは異なることがあります

《研修情報システム MyPage》

・ログイン

https://kensyu.pref.shimane.lg.jp/webrsv/index_personal_training_history.php

又は

<https://x.gd/kensyumypage>



ログイン ID 職員番号(8桁)

パスワード 自分で登録したもの

※初期パスワードは職員番号

・主に使う項目



数値は、教育センターからのお知らせ(未読)の数を表しています

【マイキャビネット】

- ・教育センターからのお知らせ一覧表示
- ・関係資料の取得、回答(提出)、共有
- ※研修日の少なくとも3週間前からは、こまめに確認してください

【アンケート】

- ・研修受講後のアンケート回答

【欠席・遅刻・早退・変更 申請】

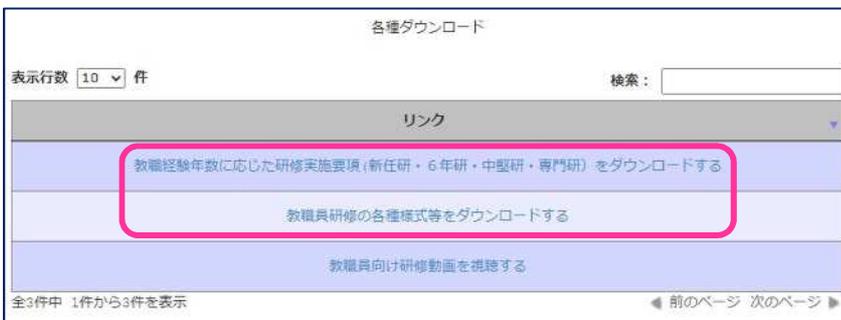
- ・教育センター研修を欠席等する場合は、管理職を通じて研修担当者に電話連絡
- ・学校 Page から所属長の承認を受ける
- ・申請期限は、研修日より3週間以内

研修に関する資料のダウンロード方法

① 研修情報システム MyPage にログイン



② 「各種ダウンロード」をクリック



③ 当該リンク先をクリック



④ 受講している研修をクリック



⑤ 必要な資料をダウンロード

研修動画の視聴方法

① 研修情報システム MyPage にログイン



② 「研修動画」をクリック

研修番号	研修名	視聴開始日	動画	視聴キー
1195	数値経費6半自研修(英語教員)第Ⅱ回教育センター研修	-	動画1視聴 動画2視聴 動画3視聴 動画4視聴	動画1: keiken 動画2: keiken 動画3: keiken 動画4:
1195	中級教諭等資質向上研修(英語)第Ⅱ回教育センター研修2	-	動画1視聴 動画2視聴	動画1: keiken 動画2: keiken

③ 研修名を確認し、 関係のリンク先をクリック

この動画を表示するには視聴キーを入力してください。

視聴キー

.....

④ ③に表示されている視聴 キーを入力



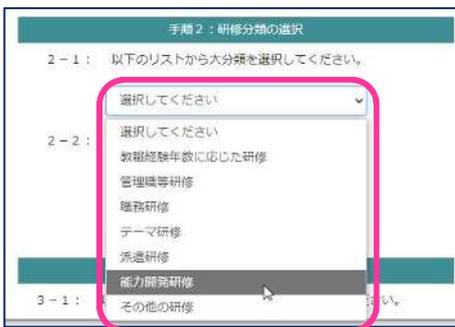
⑤ をクリック

研修申込の方法

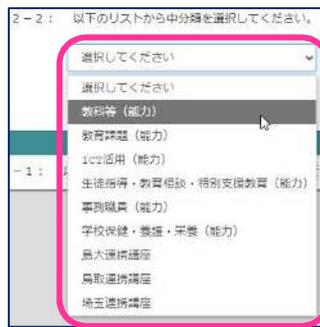
① 研修情報システム MyPage にログイン



② 「研修申込」をクリック



③ 該当の研修分類を選択



④ 該当の項目を選択



⑤ 申し込む研修を選択



⑥ 「確認一覧へ追加」をクリック

⑦ 申込者の名前・研修講座を確認

※ 必要に応じて「備考」を記入



⑧ 「登録実行」をクリック

※ 申込を完了するには、管理職の承認が必要です

受講者が教育センター宛に提出する資料等の提出方法

① 研修情報システム MyPage にログイン



② 「マイキャビネット」をクリック



【関係資料の取得】

- ③ 受講者宛の「書類名、ファイル名」を確認
- ④ 「取得」をクリックし、当該資料をダウンロード

【関係資料の提出】

- ⑤ 「回答」をクリック



⑥ 「参照」をクリックし、提出ファイルを選択

⑦ 「アップロード」をクリック

【受講者同士で共有された関係資料の取得】



⑧ 「共有」をクリック

⑨ 見たい資料の「取得」をクリック

⑩ 全ての資料を見たいときは、「一括ダウンロード」をクリック

研修アンケートの回答方法

① 研修情報システム MyPage にログイン



②「アンケート」をクリック

120 分以内に回答もしくは一時保存
※120 分を超えると、入力したものが消えます



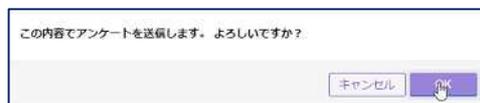
③該当するアンケートの
「回答する」をクリック



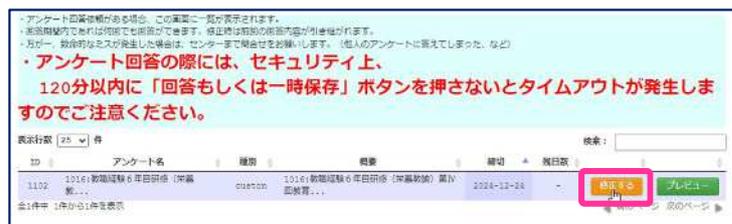
④必要事項を記入



⑤アンケート入力後、「回答もしくは一時保存」をクリック



⑥ 回答、一時保存いずれの場合も「OK」をクリック



⑦ 保存した内容を修正したいときは、「修正する」をクリック

校長(学校代表)が教育センター宛に提出する計画書・報告書等の提出方法

《研修情報システム学校 Page》

※管理職又は管理職から任命された担当者のみ操作することができます

① 研修情報システム学校 Page にログイン

※学校 ID、パスワードは、教育センターから所属長にお知らせしています

② 処理者名を選び、「選択」をクリック

③ 「報告書提出」をクリック

研修分類	研修番号	研修名	確認
職修研修	535	健康教育(学校保健)研修【オンデマンド】	確認
職修研修	6550000	小・中学校研究主任研修	確認
教職経験年数に応じた研修	101	初任研2学期学校訪問指導(提出用)	確認
教職経験年数に応じた研修	415	初任者研修	確認
教職経験年数に応じた研修	605	新規採用普通教諭研修	確認
教職経験年数に応じた研修	940	新規採用非常教諭研修	確認
教職経験年数に応じた研修	1065	フォローアップ研修(教諭・2年目)	確認

④ 当該研修の「確認」をクリック

※ 該当する研修が見つからないときは、表示行数を増やしたり、「次のページ」をクリックしたりしてみる

⑤ 提出ファイル選択の「参照」をクリック

⑥ 提出ファイルを選択

⑦ 提出ファイル選択の「提出」をクリック

研修に役立つ資料

資料	リンク先	
専門性向上研修の手引	研修情報システムMyPage[各種ダウンロード]>[教職経験年数に応じた研修の実施要項をダウンロードする	
様式 (Word ファイル)	研修情報システムMyPage[各種ダウンロード]>[教職員研修の各種様式等をダウンロードする>専門性向上研修	
専門性向上研修について	研修情報システムMyPage[研修動画]から視聴	
課題研究の進め方	※第 I 回教育センター研修実施後	
過去の課題研究レポート	研修情報システムMyPage[各種ダウンロード]>[教職員研修の各種様式等をダウンロードする>専門性向上研修	
学習指導要領解説	https://www.mext.go.jp/a_menu/s-hotou/new-cs/1384661.htm	
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	https://www.nier.go.jp/kaihatsu/s-hidousiryoku.html	
しまねの教育情報 Web (EIOS:エイオス)	http://eio-shimane.jp/	
Well-being な生き方を目指して ～個別最適な学びと協動的な学びの一体的な充実～	https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/chosa-kenkyu/seikabutsu/well-being.html	
独立行政法事教職員支援機構 (NITS:ニッツ)	https://www.nits.go.jp/training/	
国立特別支援教育総合研究所 (NISE:ナイセ)	https://www.nise.go.jp/nc/	
StuDX Style (スタディーエックス スタイル)	https://www.mext.go.jp/studxstyle/	

誰もが、誰かの、
たからもの。

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい
それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない
互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる
そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は、
自分サイズで、一生懸命生きる人を応援してくれる
未来への原動力

人が人のたからもの
誰もが誰かの応援団

いいけん、
島根県

専門性向上研修 年間予定表



OJT研修関係

Off-JT研修関係

提出関係

5月 第Ⅰ回教育センター研修(オンライン)

5月 専門研チームづくり

5月 専門性向上研修の見通しを立てる → 「専門性向上研修計画書[様式1]」を記入、提出
[メ切 6月12日(木)]

5月 「課題研究構想メモ[様式1]」を作成

5月 課題研究構想についての校内発表

6月 課題研究構想メモを教育センターに提出 [メ切6月12日(木)]

5~8月 専門的知識・技能向上研修の構想を立て、実践の準備

7~1月 オンデマンド研修動画を視聴 → 研修情報システム学校Page「アンケート」回答

7月 課題研究構想メモ最新版、課題研究の進捗状況について説明できるものを準備

8月 第Ⅱ回教育センター研修(集合)

9~10月 課題研究レポート中間発表用[様式3]を作成 → 校内課題研究中間発表
[10月8日(水)までに実施]

中間発表1週間以内「課題研究レポート中間発表用」を提出 [最終メ切10月16日(木)]

9~2月 専門的知識・技能向上研修の実施
「授業前の協議・準備」「授業(実習教員としての職務)」「振り返り」

1~2月 課題研究レポート[様式4]を作成

2月 成果発表用「課題研究レポート[様式4]」を提出 [メ切 2月5日(木)]

1~2月 課題研究成果の校内発表 [2月20日(金)までに実施]

2月 第Ⅲ回教育センター研修(オンライン)

2月 「課題研究レポート(最終報告用)[様式4]」「報告書[様式5]」を提出 [メ切 2月26日(木)]

年間 メンタルヘルス研修 [2月中旬までに実施]